

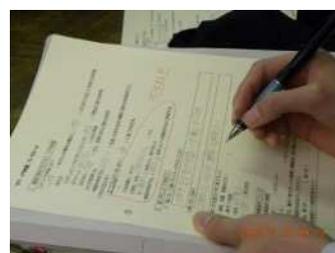
平成30年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- I スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び
- II マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成
- III スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築
- IV 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成
- V スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成

道府県・政令市名【 北九州市 】

1 実践テーマ	【 Ⅲ 】
2 実施対象者	北九州市立菊陵中学校 第1学年 69名
3 展開の形式	(1) 学校における活動 ① 教科名（総合的な学習の時間） ② 行事名（ ） ③ その他（ ） (2) 地域における活動 ① イベント名（ ） ② その他（ ）
4 目標 (ねらい)	(1) 車いすを使って生活する苦労や工夫を知り、障がいをもった方たちと共生するために、自分たちにもできることを考える。 (2) リオパラリンピック車いすテニス日本代表二條実穂選手の話を知ったり、競技用車いすの使用体験をしたりして、人間の強さと弱さについて考え、自主・自立していこうとする態度を養う。
5 取組内容	(1) 事前学習 ① 共生社会について学ぶ ・オリンピック・パラリンピック学習とは何か、共生社会とは何かについて、講義形式で学んだ。 ・本校でのテーマやめあてを確認することで、本学習に対して意義を持って参加させるようにした。 ② 車いすについて学ぶ ・車いすに対するイメージを問い、歴史や意義について学んだ。 ・車いす種類と選択する際の留意点、介助用車いすと協議用車いすの相違点について、理由を含め考えさせた。 ③ 二條選手の経歴 ・招聘するパラリンピアン（選手）の経歴や実績を学び、世界で活躍する人物であること踏まえ、質問事項を考えさせた。 ・車いすテニス用の車いすの特徴や車いすテニスのルールについても触れた。



## (2) パラリンピアン招聘

### ①講演

- ・経歴や実績に加え、体験談や大切にしている言葉などについて講演いただいた。写真や動画も多く準備してくださり、中学生にも興味を持ちやすい内容であった。
- ・事前に生徒が考えていた質問事項にも快く答えてくださった。また、生徒目線で話をしてくださったので、積極的に学習に取り組むことができた。

### ②車いす体験

- ・リレー形式で車いす体験を行った。全員に体験させることで、共生社会の中での自己の役割について考える足がかりとした。
- ・ラケットを持って車いすを操作する体験も行った。車いすテニスのみならず、車いすを使用した状態でものを運ぶことがいかに困難か、身をもって体験することができた。

### ③車いすテニス体験

- ・代表生徒で車いすテニス体験を行った。車いすに乗ってスポーツをする困難さだけでなく、目標に応じて移動することや体を動かすことの困難さ自体を体験することができた。
- ・代表生徒だけでなく、周りで見学していた生徒にも歓声や笑顔が見られ、学ぶだけでなくスポーツを楽しむ雰囲気についても享受してくださった。



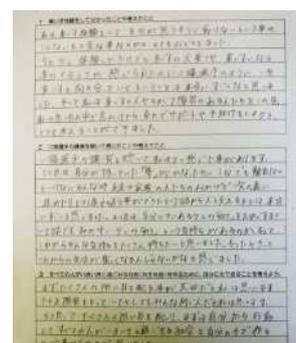
## (3) 事後学習

### ①講演、体験で学んだこと

- ・ワークシートを作成し、学びや気づきについて書かせた。
- ・生徒達は、事前学習や既存のイメージと実際の講演内容や体験とのギャップを感じている様子であった。

### ②共生社会の中で自分たちにもできること

- ・自身の将来に生かしていきたいことだけでなく、周囲の仲間や障がいをもつ方等と共に生きていくために自身ができることについて考えさせた。



<p>6 主な成果</p>	<p>生徒の感想文からの抜粋という形でまとめる。</p> <p>(1) 車いすに関する学習、車いす体験を通して</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人それぞれの状況によって、車いすの形や種類を変えなくては いけないと知った。足の不自由な人が使うものというイメージ しかなかったが、温かいものだというイメージも持てた。</li> <li>・思っていた以上に操作が難しく、車いすでの生活の大変さが分 かった。そして、今、自分の体が健康なことがとてもありがた いものだと思った。</li> </ul> <p>(2) 講演を聴いて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「私たちには可能性がある」「夢は叶えるもの」という言葉が印象 的だった。この先、受験や就職など大変なことがたくさんあると 思うが、二條選手の言葉を思い出し夢を追いかけてい。</li> <li>・心に残ったのは、「自分の中の”好き”という気持ちを大切にす る」という話です。これから、そんな気持ちをたくさん持ちたい と思いました。そうしたら、これからの生活が楽しくなるんじや ないかと感じました。</li> </ul> <p>(3) 共生社会の中で自分にもできること</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・席を譲ったり、ボランティアに参加したり、目の不自由な人の手 をとって歩いたり、小さなことでも何度もすればたくさんの方が 生き生きと暮らせると思う。</li> <li>・差別をなくすことが大切だと思います。今、一緒に過ごしている 仲間を大切にすれば、差別はなくなると思いました。そして、人 間は文化や言語が違うことがあるので、お互いを認め合うことも 大切だと思います。</li> <li>・自分は子どもなので物やお金ではなく、言葉や思いやりを使って 行きたいと思います。みんなが気持ちよく1日を過ごせるように 声をかけること、あいさつすること、家族が喜ぶように勉強する ことです。</li> </ul>
<p>7実践におい て工夫した点 (事業の特色)</p>	<p>○昨年度はおもてなし講座を行ったが、本年度は実際にスポーツを 行う中での学習にしたいと考え、このような取組を行った。また、 本校はユネスコスクールに認定されており、その取組の一環として JICA研修員との交流も行った。少しでもその取組との関連性を 持たせ、国際的な視野に立った取組を行いたいと考え、パラリンピ アンの講演と共生社会への参画をテーマにした。</p> <p>○午前中は本校、午後は隣接校で同様の学習を行った。多くの中学生 がパラリンピアンの言葉に触れると同時に、スケジュール調整や事 業費の活用にとって有効であったと考える。</p>
<p>8主な課題等</p>	<p>○オリンピックやパラリンピアンを講師としたい場合、依頼できる 講師を探すのも困難であるが、講師とのスケジュール調整にも時 間がかかるため、学校行事との調整も困難である。講師依頼と講 師のスケジュール調整に関して、より多くの情報をいただきたい。</p> <p>○本校は小規模であり、対象生徒も1学年であったため、全ての生 徒が車いす体験することができたが、対象生徒数が多くなればな るほど体験は困難になる。そうなれば、講演のみの学習等になり 特色のある活動ができないことが予想される。</p>
<p>9来年度以降 の実施予定</p>	<p>○まず、全校生徒を対象に実施したい。パラリンピアンの言葉1つ 1つが非常に重く説得力に満ちている。全生徒に聞かせることが できれば大きな経験となると考える。</p> <p>○せっかくの機会であるので、可能な限り保護者や地域を巻き込ん だ学習にしていきたい。運動習慣を身につけさせるためには、家 庭の協力が不可欠であり、課題としても表れている。その解決の ための一助にもなると考える。</p> <p>○本校は、国際理解教育を特色としている。その特色との関連付け は元より、道徳の授業や各教科の学習とより一層関連付けて推進 していきたい。</p>